

愛国教育と

知ってほしい
教科書で「いま」何が起きているのかを――

監督 齋加尚代 語り 井浦新 プロデューサー 澤田隆三、奥田信幸 配給・宣伝 きろくびと 2022年「日本」107分 カラー DCP ©2022映画「教育と愛国」製作委員会

2017年
第55回
ギャラクシー賞
大賞

2018年
第38回
「地方の時代」映像祭
優秀賞

2023年2月23日 (木・休日)
立教大学14号館D201教室

愛国教育と

ひとりの記者が見続けた“教育現場”に迫る危機

いま、政治と教育の距離がどんどん近くなっている。軍国主義へと流れた戦前の反省から、戦後の教育は政治と常に一線を画してきたが、昨今この流れは大きく変わりつつある。2006年に第一次安倍政権下で教育基本法が改正され、「愛国心」が戦後初めて盛り込まれた。以降「教育改革」「教育再生」の名のもとに、教科書検定制度が目に見えない力を増していく。「日本軍」慰安婦や沖縄戦を記述する教科書を採択した学校に押し寄せる大量の抗議ハガキ。政治介入ともいえる状況の中で繰り返される出版社と執筆者の攻防はいま現在も続く。

本作は、歴史の記述をきっかけに倒産に追い込まれた大手教科書出版社の元編集者や、保守系の政治家が薦める教科書の執筆者などへのインタビュー、新しく採用が始まった教科書を使う学校や、慰安婦問題など加害の歴史を教える教師や研究する大学教授へのバッシング、さらには日本学術会議任命拒否問題など、大阪・毎日放送（MBS）で20年以上にわたって教育現場を取材してきた齊加尚代監督が、「教育と政治」の関係を見つめながら最新の教育事情を記録した。教科書は、教育はいったい誰のものなのか……。

2017年度ギャラクシー賞・大賞を受賞した話題作が、最新取材を加えついに映画化!

2017年にMBSで放送された番組『映像'17教育と愛国〜教科書でいま何が起きているのか〜』は、放送直後から大きな話題を呼び、その年のギャラクシー賞テレビ部門大賞、「地方の時代」映像祭では優秀賞を受賞した。2019年に番組内容と取材ノートをまとめ書籍化（岩波書店刊）、2020年には座・高円寺ドキュメンタリーフェスティバルで上映もされた。



これだけ長く注目され続けるのは、多くの人にとって教科書問題が身近であり、またこれからの社会を考えるうえで「教育と政治」の関係が重要であるという証左ではないだろうか。いくつもの壁にぶち当たりながらも追加取材と再構成を敢行し、語りは俳優・井浦新が担当した。いまあらたに誕生した映画版『教育と愛国』がいよいよ劇場公開となる。



監督 | 齊加尚代 語り | 井浦新 プロデューサー | 澤田隆三 / 奥田信幸 撮影 | 北川哲也 編集 | 新子博行 録音・照明 | 小宮かづき 製作 | 映画「教育と愛国」製作委員会 製作協力・宣伝 | 松井寛子 宣伝アドバイザー | 加瀬修一 (contrail) 宣伝美術 | 追川恵子 配給・宣伝 | きろくびと 2022年/日本/107分/カラー/DCP www.mbs.jp/kyoiku-aikoku

2023年2月23日(木・休日) 立教大学14号館D201教室

池袋駅西口下車徒歩7分/東京メトロC3出口より4分

<https://www.rikkyo.ac.jp/access/ikebukuro/>

資料費 1,000円

立教大学学生・18歳未満は無料

・Peatixでのご購入 ⇒ <https://kyoiku-aikoku-tokyo.peatix.com>

・メール、電話で予約 ⇒ kashiwa09autumn@gmail.com. 090-8311-6678



上映&トークセッション

ゲスト 齊加尚代監督 ナビゲーター 砂川浩慶さん (立教大学教授)

●午後の部 開演 13時 (開場12時40分)

トークセッションPart I スペシャルゲスト 14時50分~15時35分 宮澤弘道さん (小学校教諭)

●夜の部 開演 17時 (開場16時40分) トークセッションPart II 18時50分~19時35分

スペシャルゲスト 武田砂鉄さん (フリーライター、ラジオパーソナリティ)

★午後の部と夜の部は 全席入れ替え制・自由席です。



[主催] 立教大学社会学部メディア社会学科砂川ゼミ sunakawa@rikkyo.ac.jp 『教育と愛国』上映実行委員会 齊加尚代さん 宮澤弘道さん 武田砂鉄さん